

# 生物多様性の保全・回復、水環境の保全

当社では、「経団連生物多様性宣言・行動指針」に賛同し、また、電気事業連合会「電気事業における生物多様性行動指針」の主旨を踏まえ、J-POWERグループ環境目標に「生物多様性の保全・回復」、「水環境への保全」を掲げ、ネイチャーポジティブの実現を目指し、教育や保全活動を通じた生物多様性の保全・回復に向けた意識の向上、希少動植物の生息・生育地の保全、排水の適切な管理などに取り組んでいます。

## 水力発電所立地地点での生物保護

田子倉電力所（福島県）では、調整池内に堆積した土砂で造成する土砂置場において、造成範囲で確認された福島県レッドリスト指定のミクリとアカハライモリに対し、ミクリを近傍に移植するとともに、アカハライモリの保全措置として排水側溝内に生物用スロープを設置し、動植物の保護に努めています。なお、措置後のモニタリングにより、移植後のミクリとスロープを利用しているアカハライモリの生息を確認しています。



写真：ミクリの移植状況



写真：アカハライモリの生息状況

このほか、水力発電所周辺の社有林の保全、林地残材等をバイオマス燃料へ加工（火力発電所で燃焼）し、森林保全とCO<sub>2</sub>排出低減へ貢献しています。

## 生物多様性に関するリスク評価と対応

環境アセスメントでは、地域や事業の特性に応じて、事業の着手前に環境の状況を調査し、事業による環境への影響を予測および評価しています。その結果に基づき適正な環境保全措置を実施して、周辺への環境影響を最小限に抑えています。運転開始後も環境保全協定等に基づいてモニタリングを行い、その結果を公表しています。



写真：動物調査（昆虫類調査）



写真：植物調査（植物相調査）

## 水関連のリスク対策に係る研究開発

J-POWERでは、貯水池環境保全技術、自然災害に対するレジリエンスの強化（衛星画像データ利用の遠隔監視）等、水関連リスクに関する研究開発を行っております。これらの研究開発を通じて、水環境の保全および水環境に関するリスクの低減に向けた包括的な取り組みを展開していきます。（水関連のリスク対策に係る研究開発費用を含めた当社の研究開発費総額については統合報告書13ページをご参照ください）